

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172700649		
法人名	(一財)高山市福祉サービス公社		
事業所名	ホームきりう		
所在地	岐阜県高山市桐生町8-44		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172700649-00&PrCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成26年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定員が6人と静かな環境の中で、入居者様のペースを尊重しゆったりと生活していただけるよう、見守り、待つ事を心掛けて介護させていただいています。それぞれが持てる力を発揮する場があることで、生きる喜びや希望を持って生活していただきたいとの思いから、得意なことや持てる力に応じた役割を担っていただいています。
また、長年守ってこられた家やご家族への強い思いがある事を痛感しているため、ご家族と連絡を密にとりながら、行事に参加いただいたり随時の受診や帰宅など、ご家族にしか出来ない役割を担っていただき、「ご家族と職員は利用者様を支える両輪」との基本に沿って支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

散歩時にお茶をご馳走になったり、近所の方が犬の散歩や子どもを連れて遊びに来るなど、地域に溶け込み自然な近所付き合いをしています。運営推進会議では、地域の方の参加が多く避難訓練の役割をお願いするなど、互いに率直に意見交換ができる間柄にまで発展している。全員の利用者が、杖を使用する方はあっても自分で歩き、おむつを使用せずトイレに行き、布団の上げ下ろしも職員と一緒にしている。畑では、鍬を使っての農作業や収穫も行い、食事の買い物や調理・後片づけなどの役割分担があり、利用者の得意なことや出来る力を活かした支援に取り組んでいる。そのためか心身状態が長く維持できており、元気な利用者が多い。かかりつけ医の受診・帰宅や墓参り・外食・担当者会議などに家族も積極的に関わってもらい、家族と共に利用者を支えることを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりとした時間の流れの中で、ご自分のペースで地域での役割を担って生活していただけるよう、職員や地域の方と理念について話し合いを行い実践につなげている。	昨年の評価で課題となった理念について、全体会議と運営推進会議で話し合った。結果的に現状通りとなったが、理念を日々のケアに繋げているかの確認が出来、さらに利用者が地域の中で暮らせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	皆で育てた朝顔の種や苗を近隣の方にプレゼントしたり、常時近所の小さい子供さんとの交流もある。また、地域の方に避難訓練や親睦会に参加いただいたり、随時の散歩や、地域の夏祭りへの参加など日常的に交流を行っている。	ボランティアの訪問や事業所行事・避難訓練などに参加してもらい、地域行事には利用者と一緒に参加して交流している。近所の方が犬の散歩や子どもと遊びに来たり、散歩時にお茶をご馳走になったりして、日頃から近所付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との日常的な付き合いの中で、認知症であっても少しの助言と見守りがあれば、社会生活が続けられる事を理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加していただく地域の方は年度で代わられたり、同年度でも違う役職の方が参加して下さっている。又ご家族にも交代で参加していただき、活発な意見をいただくことで、サービス向上に活かすよう努めている。	行事後の開催が多く、家族や地域住民・市の関係者など多数の出席者があり、活発に意見交換をしている。除雪の件では事業所に申し入れがあり、カーブミラーの設置は地域の方から市の方へ依頼してもらうなど率直に話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内や報告書の提出、認定審査資料の請求などで窓口を訪問する機会を設け、協力関係を築くよう努めている。今年度は樹木が大きくなりすぎて近隣の方に迷惑がかからないように、市と協議し伐採させていただいた。	管理者は定期的に市町村の窓口に出かけ、運営推進会議以外にも担当者と相談や話し合う機会を多く作っている。研修や建物の修繕など幅広く相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアの重要性は職員全体が理解しており、常に気を引き締めて対応しているが、更なる取り組みのため研修を受け全員に復命を行った。全館は夜間以外は施錠せず、自室も施錠していない。	夜間以外の施錠はしていない。身体拘束を行わないケアの研修を毎年全職員で行っている。日々の介護の現場で起こり得る可能性のある無視や言葉の虐待についても、全体会議で話し合い、気になる言葉がけについては、管理者がその場で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の全体会議で、言葉による虐待も含めた注意喚起を行うなど、虐待が見過ごされることがないように日々のケアの中で繰り返し注意喚起を行い、防止に努めている。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の成年後見制度を利用し、ホームで安心して生活されている方がおられる。社協職員には運営推進会議へ出席いただいたり、連絡を密に取りながら、制度がスムーズに活用できるよう日常的に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約に際してはご本人やご家族に十分説明を行い、質問に答えることでご理解、納得をいただくよう努めている。又、随時のどんな質問にも誠実に対応し理解・納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関には意見箱を設置し、随時の訪問時にもご意見や要望をお聞きしている。毎年春にはご家族アンケートも実施し、どんな些細な事でも意見として捉え、運営に反映させるよう努めている。	面会時や家族アンケート・運営推進会議などで意見を聞いているが、感謝の言葉が多く意見や要望はあまりない。管理者やその直属の上司は、遠慮して言われないのではないかと気にかけて、家族からの意見が聞ける取り組みを課題としている。	家族の面会も多く、話しやすい関係をさらに活かして家族からの提案や要望などを運営に反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話や毎月開催する全体会議での意見、随時書き込みが出来る気付きノート等で職員からの意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させるよう努めている。	管理者やその直属の上司は、物品購入や修繕のこと、個別の職員の勤務に関する事など、直接聞いたり全体会議で要望や相談を受けている。提案などから変更したことは、気付きノートを活用して全職員に周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議に出席したり、随時の訪問で職員の思いや勤務状態等を把握し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の機会を平等にし、復命をしていただくことで他の職員も業務に生かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月で交互に実施しているグループホーム協議会支部会議や、相互の施設で行うケアマネ会議で交流する機会を設け、ネットワーク作りや勉強会を行い、質の向上を図っている。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と共にホームを見学していただき、説明、納得の上で入居いただくようにしている。その過程の中で不安なことや要望などをお聞きし、ご本人の安心確保と良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にご家族の思いや不安等を聞かせていただき、ご要望等にも善処できるよう対応して、ご家族との良好な関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と共に、今必要と思われる支援について一緒に考え、ご本人にとって一番良いと思われる支援が提供できるよう努めている。必要であれば成年後見制度の利用なども視野に入れて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様毎の得意分野を確認し、役割を担っていただくことでご自分の居場所を見つけ、共に支えあう関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員は本人を支える両輪との理念にのっとり、些細なことでもご家族に報告、相談し連携を取りながら支えるという関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽にホームによっていただけるよう機会があるたび声かけを行い、随時の帰宅や面会、受診、外出時には時間制限を設けず対応するなど、関係が継続されるよう支援している。	家族との関係を大切にして、かかりつけ医の受診や馴染みの美容院へ行くときは、家族に協力を依頼している。墓参りや帰宅を希望するときも家族と連絡を取り合って支援している。職場の友人に来てもらったり、暑中見舞いを出したりして関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が上手く関係作りをされていて、職員が教えていただく事も多いが、時として上手く関係作りが出来ない様子がみられる時は、話題を変えるなどの工夫で関係作りを支援している。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても新しい入居先の様子を伺ったり、ご家族との話しの中で必要な相談や支援に努めている。退居後も立ち寄ってくださるご家族もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に気持ちや意見をお聞きし、出来るだけご本人の希望や意向を把握するよう努めている。上手く表現できない方や、素直に表現できない方には、表情や仕草で思いや意向を推し測るよう努めている。	日頃の会話から本人のやりたいこと、行きたい所などの思いを聞いている。困難な場合は、素振りや表情から問いかけて気持ちを確認したり、日頃の様子を観察したりして思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や友人、近所の方や在宅時の福祉サービス提供者からの情報、ご本人の話しの内容などからこれまでの生活歴や暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を見せていただく中で、職員同士が気付きノートやケア記録などで情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回全職員の参加で行う全体会議で、個人毎の評価を行い、3ヶ月に1度のケアプラン見直し時には可能な限りご本人やご家族の意向を話し合い、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	毎日、短期目標が達成されているかをチェックして、全体会議で個別の評価を行い介護計画に反映させている。見直し時には家族や主治医の意見も取り入れている。認定更新時は本人・家族も交えた担当者会議を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	シフトによる勤務のため情報の共有と周知には特に気を遣っている。そのため、気付きノートや個々のケア記録を活用し情報の共有と周知を行い、介護計画の見直しや実践に生かす工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様それぞれの環境や状況が違う中で、必要に応じて成年後見制度を利用したり、地域の方や福祉センター利用者との交流などで、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入会したことで避難訓練や親睦会への地域の方の参加も増えてきた。近所へ散歩に出かけたり夏祭りへ参加するなど、地域の中で安全で豊かな暮らしを楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が在宅時からのかかりつけ医に、ご家族と共に受診されているので、ホームでの様子や病状についてお伝えし適正な医療を受けられるよう支援している。直接主治医と連絡をとる事もある。定期受診以外に往診を利用されている方もある。	全員が在宅時からのかかりつけ医に受診している。受診の付き添いは、家族にお願いしている。利用者の状態を家族に口頭や文書で伝えたり、直接医師に連絡したりしている。かかりつけ医や歯科医の往診を受ける利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がいるので随時気付きや情報を伝える事が出来、適切な看護や医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と相談し緊急時携行サマリーを作成して、緊急搬送や入院にもスムーズに治療が受けられるよう情報の共有に努めている。又、入退院時には主治医やケアワーカー、GH 職員との話し合いの場を設けて安心して治療を受けられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に全員が特養に入所申し込みをされているが、入居中の重度化も十分予想されるので、全体会議でいざという時出来る支援について話し合いを行っている。ご家族にも体調などについて随時細かく報告し、主治医にも協力もいただくよう依頼している。	入居時に重度化や終末期になった時の対応が、事業所では困難なことを説明して、特別養護老人ホームの申し込みを勧めている。急変や重度化した場合に事業所で出来ることについては、職員間で話し合っている。利用者の状態は常に家族と連絡を取り、主治医とも相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えてマニュアルを整備し、全体会議でも情報の共有をはかり事故発生時に速やかに対応できるよう備えている。併設の福祉センターにはAEDが設置されているので定期的に研修も行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や風水害対応マニュアルを整備し職員に周知すると共に、地域の方には避難訓練に参加いただき、万一の場合は協力いただける体勢を整えている。	近隣の方の参加を得て、夜間想定も含む避難訓練を行い、近隣住民の役割もあり協力体制を築いている。また、訓練時の職員や利用者の動き、気付きや反省、課題と改善点をまとめ、消防署や参加者から総評を受け今後活かしている。	

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助は出来るだけ居室のトイレで行い他の方にわからないようにするなど、日頃からプライバシー保護や言葉かけなどには注意を払っている。全体会議でも随時注意喚起を行っている。	利用者の傷つくような言葉かけや対応に気を付けて、利用者の感情や表情を読み取り、気分を損ねなかったか常に注意を払っている。管理者は、職員同士の会話にも気を配り、気付いたときはその場で注意して全体会議でさらに周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の過ごし方や服装、食事などは利用者様の希望に添うよう、常に言葉かけを行って支援している。自己決定が難しい方には、少しの助言で出来るだけ自分で決めていただけよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れは決まっているが、強制するものではなく、各自のペースで生活されている。言葉掛けなどで意向や希望を確認し支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選んだ服を着られたり、在宅時からの行きつけの美容院を利用されるなど、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。季節ごとに衣類の入れ替えを行い、身だしなみを整えられる支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容は利用者様の希望に添えるよう工夫をしている。準備や後片付け等、各自が持てる力に合わせて役割分担をしながら一緒に行っている。自家菜園も一緒に行い、収穫の喜びも体験できるよう支援している。	畑作業から収穫・買い物・準備や後片付けなど、利用者の得意なことや出来ることを分担して一緒に行っている。また、職員も一緒に食事をしながら会話も弾み、利用者のペースを大切にして食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分摂取量、メニューを記録して状況を把握し、栄養や水分が確保できるよう努めている。お粥や小さめにカットした副食を食べていただいている方もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の歯の状態や持てる力に応じた声かけや支援を行っている。就寝中に義歯が行方不明になる事が多いので、夜間は預かり洗浄剤に浸けて保管している。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、定時にトイレの声かけやトイレ誘導を行うことで排泄の失敗を減らし、自立に向けた支援を行っているので、オムツを使用されている方はおられない。	各居室にトイレがあり自分で行く人もある。利用者の様子や排泄習慣を把握して、トイレに誘導している。失敗しても自分で着替えができるよう工夫してオムツに頼らない支援をしている。入居時に紙パンツ使用の人が布パンツになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に湯冷ましを一杯飲んでいただき、運動や食事を工夫する事で便秘予防に努めている。便秘の訴えがある利用者様には、出来るだけ体を動かす工夫をするプランを作成している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順は一応決まっているが、個々の状態に応じて臨機応変に変えている。嫌がられる場合は時間をずらして誘ったり、入浴日でもなくても希望されれば入っていただくなど、個々にそった支援をしている。	一人ひとりの入浴の準備を一緒に行い、回数や時間・順番など出来る限り希望に応じている。暖簾をかけたり、種々の入浴剤を使用したりして入浴を楽しめるようにしている。嫌がる人には、誘い方や日時を変えて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は洗面所、トイレがあり、縁側からは自分で植えた花を見る事が出来る。内側から自室に鍵を掛ける事もでき、その時々状況に応じて、休息したり安心して過ごしていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の状態をよく知る看護師が薬の管理をしている。薬の目的や用法、用量について随時他の職員に周知し、情報の共有を行うことで服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自が持てる力に応じた役割を担うことで、張り合いのある生活を送っていただくためのケアプランを作成し支援している。又、歌の会やご家族との外出などで気分転換を図り、折り紙や貼り絵などを楽しむ支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	花見や初詣など季節ごとに全員で外出できる機会を多く設けている。日々の生活の中では、天候を見て近所への散歩や畑の手入れ等に出かける工夫をしている。ご家族との連絡を密にする事で、ご家族との外出が多く持てるよう支援している。	散歩や買い物・敷地内の畑など希望に添って日常的に出かけている。季節ごとに花見や祭り・リンゴ狩り・魚釣り大会など全員で頻回に外出している。利用者の希望する美容院や墓参りなどは、家族の協力を得て支援している。	

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族からお預かりして出納帳に記録しているが、ご家族の希望で小額のお金を自分で管理され、福祉センターの公衆電話から電話を掛けられる方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話から家へ電話をかけたり、年賀状や暑中見舞いなど季節の挨拶を自分の字で書いていただき、一緒にポストへ投函するなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	市街地ではあるが広い敷地の中に南向きに建てられたホームなので、不快や混乱を招くような刺激は感じない。居室の縁側からは児童遊園やプランターの花を見る事が出来、廊下には写真や花を飾って居心地よく過ごせる工夫をしている。	日当たりのよい廊下に椅子を並べて、おしゃべりや日向ぼっこのしやすい環境を作ったり、玄関や居間に外出や行事の写真を飾って話題作りをしている。また、季節ごとの花や作品を飾って季節感を感じてもらえるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム入口付近にテーブルと椅子を置き、花を飾るなどして、気のあった利用者同士が寛げる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は縁側と洗面所、トイレを備えている。ご家族と相談して、在宅時に使っておられた家具や道具を持ち込んでいただき、本人が居心地よく過ごしていただけるよう工夫をしている。	入居時の混乱を防ぐため使い慣れた物を持参してもらおう家族に説明し、愛用の筆筒や鏡台などを使用してもらっている。個々の好みや心身状況に合わせて布団かベッドを選び、希望の方は表札をかけている。冬にはコタツをつくり、くつろげるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手摺りを設けたり、トイレや洗面所には表示をする事で、ひとりひとりが安全に出来るだけ自立した生活を送る事が出来るよう工夫している。		